

# 「コンパクトハウス・プロジェクト Compact House Project」

インタラクティブメディア学科 野口 靖 Yasushi Noguchi

基礎教育課程 小田珠生 Tamaki Oda



本プロジェクトは、「人間が尊厳を持って暮らせる必要最小限の住処とは？」という問いを巡る旅の過程である。

震災以降、「どこまで小さい空間で人は幸福に暮らせるのか」ということに興味を抱いていたが、様々な取材の結果、家に住むことによる幸福感は、むしろその家がどういったコミュニティの中にあつて、家族や隣人との交流がどのように成立しているかによることが分かってきた。そこで、本プロジェクトでは、ケニアのスラムで暮らすある女性が、どのように人と関わりその土地で根をはっているかを記録することを試みた。今回はケニア・ナイロビで撮影された映像を公開するが、順次世界各都市の人々の住処における暮らしぶりを取材し追加していく予定である。

なお、本展示では、このプロジェクトの新しい試みとして、野口の映像インスタレーションと小田の論文を相互作用させる形を取る。(野口)

人間としての活動は、「言語」に支えられている。言い換えれば、「言語」と一体化していると言っても過言ではない。なぜなら、人間は言語を用いて思考し、他者との言語のやりとりによって築かれるネットワークの中で生活しているからである。

日本とは全く異なる言語環境にあるケニアで、人々はどのようにネットワークの中で「言語」を機能させながら生活しているのだろうか。本稿では、当該作品を、言語学者の視点から「言語生態学」を理論的枠組みとして捉えたい。(小田)

特別協力：椎野若菜

本作品のドキュメントは、展示終了後に作者のサイトで公開予定です。

<http://r-dimension.xsrv.jp>



野口 靖・地域の集積的記憶や隠蔽された社会構造をテーマに、マッピングなどの手法をもちいたプロジェクトを多く手がけている。武蔵野美術大学助手を経て渡米。2003年 ニューヨーク大学大学院修了。文化庁芸術家在外研修員。2004年 ポーラ美術振興財団在外研修生としてニューヨークにて活動。2008年 SIGGRAPH Asia 2008 出展。2009年 アルス・エレクトロニカ Honorary Mention 選出。2013年 第5回恵比寿映像祭出展。2015年 文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出など。



小田珠生・お茶の水女子大学大学院博士課程修了。言語生態学を理論的支柱とする持続可能性日本語教育の可能性を、理論と実践を往還しながら追求しています。グローバル化が進む現代社会で生きていくための「ことば」の教育のあり方を追求することを研究の大きな目的としています。

